

# 進行性核上性麻痺評価尺度 (PSP-rating scale) 日本語版の作成

研究分担者 饗場郁子<sup>1)</sup>

湯浅 龍彦<sup>2)</sup>、濱田恭子<sup>3)</sup>、古和久典<sup>4)</sup>、中島健二<sup>4)</sup>、瀧川洋史<sup>5)</sup>

国立病院機構東名古屋病院脳神経内科<sup>1)</sup>、鎌ヶ谷総合病院難病脳内科<sup>2)</sup>

新さっぽろ脳神経外科病院脳神経内科<sup>3)</sup>、国立病院機構松江医療センター脳神経内科<sup>4)</sup>

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野<sup>5)</sup>

## 研究要旨

2007年にGolbeらにより発表された進行性核上性麻痺評価尺度(Progressive supranuclear palsy rating scale;以下PSP-RS)は、PSPの重症度を評価する尺度である。現在までに作成された2つの日本語版(湯浅-濱田版とJALPAC版)を調整した和訳調整版と、独立した訳者が和訳した原著和訳版を調整の上、back translation(英訳)を行い(和訳英訳版)た。原著と和訳英訳版をレビューし、さらに原著における質問文の解釈・コンセプトについて、原著の著者であるGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度を作成し、本研究班ホームページ上に公開した。

## A. 研究目的

進行性核上性麻痺評価尺度(Progressive supranuclear palsy rating scale;以下PSP-RS)は、2007年にGolbeらにより発表されたPSPの重症度を評価する尺度で(Golbe et al, Brain, 130, 552-65, 2007)である。6カテゴリ-28項目(100点満点)から成り、欧米ではタウをターゲットとした病態抑止治療の評価指標としても用いられている。現在まで、日本語版は湯浅-濱田版とJALPAC版が存在したが、各々の用語を見直し、原著の英語と照合した上で、日本語版として統一した尺度を作成することを目的とした。

## B. 研究方法および C. 結果

(倫理面への配慮)

本研究は、ヒトを対象とした研究ではないため、倫理面への配慮は該当しない。

湯浅-濱田版およびJALPAC版を元に、統一案(統一日本語版)を作成し、共同演者でレビューした。

英語で記載された原著をTransPerfect社の独立した訳者が和訳(forward translation)した(原著和訳版)。

統一日本語版と原著和訳版を比較し、訳が異なった部分について調整を行った(和訳調整版)。

作成した和訳調整版をBack translationし(日本語->英語)、和訳英訳版を作成。

TransPerfect社の独立した訳者が和訳調整版と和訳英訳版を比較し、必要に応じて修正を行った。

TransPerfect社の独立した神経科医および共同演者でレビュー後、

原著の著者であるGolbe氏によるレビューを施行。

最後にフォーマットと校正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度(最終版)を作成した。

英語版から「direct translation」となっていない箇所については、原著の質問文の解釈・コンセプトについてGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、最終版を作成した。修正を行った点は以下の通りである。

(1) Section 1の題名「History」を「病歴」と和訳していたが、「ADLをhistoryから調査する意味」との指摘を受け、Activities of daily living(日常生活動作)へ変更した。

(2) Section 1の質問1:「Withdrawal」は「"Withdrawal" refers to the patient's tendency to not participate in conversations, not to their level of activity in general.」の意味との助言を受け、「能動性の有無」から「会話における能動性の退行」へ変更した。

(3) 質問2:Irritability(易刺激性)の下位項目「1. increased, but not interfering with family interactions」の「family interactions」の補足説明文に「"家族とのかかわり"とは、感情的な関係だけではなく、身体的介護の提供も含まれる」を追加した。

(4) 質問3: 固形物の嚥下障害の説明文の「bread crusts」は「パンの固い部分」の意味との助言を受け、「パンの耳」から国内で固いパンの代表である「フランスパン」へ変更した。

(5) 質問4: 箸・茶碗使い、ボタンかけ、手洗

い・洗顔の「knife/fork」を「箸使い」と訳していたが、「両手で行うタスクが必要」との助言により、「箸・茶碗使い」へ変更した。

(6) 質問4: 箸・茶碗使い、ボタンかけ、手洗い・洗顔の説明文「If difficulty is related to downgaze, score as if it were purely motor」について、「if the patient's difficulty were entirely caused by poor ocular function, rate 0」と補足説明が追加されたため、「すなわち、動作困難が眼球の機能のみに起因する場合は「0度」と評価する」の補足説明を追加した。

(7) 質問13: 嚥下障害の説明文「if secretions are audible with breathing」を「ぜいぜい」と訳していたが、Golbe氏から「gurgling sounds」との指摘を受け「ゴロゴロ」へ変更した。

## E. 結論

Progressive supranuclear palsy rating scale 原著の英語版からforward translation(和訳)を行い、back translation(英訳)を行った。さらに原著における質問文の解釈・コンセプトについて、原著の著者であるGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度を作成した。本研究班のホームページ上に公表した。

## F. 健康危険情報 なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

・饗場郁子. §8-18 進行性核上性麻痺、1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版,日本医事新報社(監修 猿田享男,北村惣一郎)p.601-603, 2017.7.28

・饗場郁子,下畑享良.CQ10-1 大脳皮質基底核変性症 corticobasal degeneration (CBD)の認知機能障害の特徴と検査法は何か,認知症疾患診療ガイドライン 2017,医学書院(監修 日本神経学会 編集「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会), p.290-294, 2017.8.1

・饗場郁子,下畑享良. パーキンソン病の類縁疾患 進行性核上性麻痺/大脳皮質基底核変性症診療の進歩. Medical Practice, 35(3):415-418, 2018.3.1

・饗場郁子,下畑享良.第 3章 疾患各論 A 大脳・基底核 3.進行性核上性麻痺.神経変性疾患ハンドブック 神経難病へのエキスパート・アプローチ Handbook of Neurodegenerative Disorders(南江堂 編集 水澤英洋) p.83-99 2018.5.25

・金澤雅人,小野寺理,饗場郁子. 検査・診断 10. 関連疾患(1) 進行性核上性麻痺 臨床

病型の多様性およびパーキンソン病との鑑別診断 .日本臨牀増刊号 パーキンソン病(第2版)基礎・臨床研究のアップデート.76 巻増刊号 4:330-337, 2018.5.31

・饗場郁子,櫻井圭太,吉田眞理.進行性核上性麻痺 認知症イメージングテキスト 画僧と病理から見た疾患のメカニズム(医学書院 編集 富本秀和,松田博史,羽生春夫,吉田眞理) p.173-182, 2018.6.18

・饗場郁子,櫻井圭太,吉田眞理.大脳皮質基底核変性症 認知症イメージングテキスト 画僧と病理から見た疾患のメカニズム(医学書院 編集 富本秀和,松田博史,羽生春夫,吉田眞理) p.183-191, 2018.6.18

・藤岡伸助,坪井義夫,饗場郁子.特集 4 大認知症以外の「その他の認知症」について:診断をする際のポイントと最近の知見 大脳皮質基底核変性症(CBD)/進行性核上性麻痺(PSP)の臨床.老年精神医学雑誌 29(6):603-612 2018.6.20

・饗場郁子.各論 2.進行性核上性麻痺 a.歴史,臨床像,診断基準,mimics,非定型パーキンソンニズム 基礎と臨床(文光堂 編集 下畑享良), p.105-113, 2019.5.18

・饗場郁子. §8-28 進行性核上性麻痺(PSP), 1391 専門家による 私の治療 2019-20 年度版(日本医事新報社 監修:猿田享男 北村惣一郎), 2019.7.4

・饗場郁子.特集 新時代「令和」の前頭側頭葉変性症はいずこへ .前頭側頭葉変性症と関連疾患 進行性核上性麻痺 最近の進歩と今後の方向性 ,老年精神医学雑誌 ,30(10):1127-1138 , 2019.10.20

### 2. 学会発表

・Aiba I, Ikeuchi T, Takigawa H, Shimohata T, Tokuda T, Morita M, Onodera O, Murayama S, Hasegawa K, Nakashima K(Nagoya Japan). Progression of milestones by clinical types in progressive supranuclear palsy:a longitudinal observational study of a cohort of patients with PSP/CBD (the JALPAC project).21th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Vancouver Canada)2017.6.5

・松田直美,高松泰行,森野 陽,橋本里奈,饗場郁子.住環境整備後に転倒が減少した進行性核上性麻痺患者の1症例.第54回日本リハビリテーション医学会学術集会(岡山市 岡山コンベンションセンター)2017.6.8

・Aiba I, Shimohata T, Murayama S, Hasegawa K, Iwasaki Y, Yokota O, Sakai M,

- Yabe I, Takigawa H, Yokota T, Sugaya K, Ikeuchi T, Hasegawa M, Yoshida M, Komori T, Wakabayashi K, Saito Y, Tokumaru A.M., Sakurai K, Nakashima K. Clinical features and natural history of pathologically confirmed corticobasal degeneration-Japanese multicenter validation study of CBD-. 第 58 回日本神経学会学術大会 第 23 回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology (京都市 国立京都国際会館) 2017.9.17
- ・ Matsuda N, Takamatsu Y, Aiba I. The timed up and go test (time) is inversely associated with fall frequency in progressive supranuclear palsy. 第 58 回日本神経学会学術大会 第 23 回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology (京都市 国立京都国際会館) 2017.9.18
  - ・ Takamatsu Y, Matsuda N, Aiba I. Body sway during static standing in patients with progressive supranuclear palsy. 第 58 回日本神経学会学術大会 第 23 回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology (京都市 国立京都国際会館) 2017.9.19
  - ・ Aiba I, Shimohata T, Murayama S, Hasegawa K, Iwasaki Y, Yokota O, Sakai M, Yabe I, Takigawa H, Yokota T, Sugaya K, Ikeuchi T, Hasegawa M, Yoshida M, Komori T, Wakabayashi K, Saito Y, Tokumaru A.M., Sakurai K, Nakashima K, J-VAC study group. Clinical Features and Natural History of Pathologically Confirmed Corticobasal Degeneration –Japanese Validation Study of CBD (J-VAC Study). The CurePSP International Research Symposium 2017 (USA San Francisco) 2017.10.27
  - ・ 饗場郁子 . 孤発性タウオパチー (PSP/CBD) の臨床と病態 1. 孤発性タウオパチーの臨床と診断 . 第 36 回日本認知症学会学術集会 (石川県金沢市 石川県立音楽堂) 2017.11.25
  - ・ 饗場郁子, 池内 健, 瀧川洋史, 徳田隆彦, 下畑享良, 森田光哉, 村山繁雄, 小野寺理, 長谷川一子, 古和久典, 花島律子, 中島健二, JALPAC コンソーシアム . 進行性核上性麻痺における臨床型別臨床経過の検討 ~ 多施設共同前向きコホート研究 ~ . 第 59 回日本神経学会学術大会 (北海道札幌市 ロイトン札幌) 2018.5.23
  - ・ 瀧川洋史, 池内 健, 饗場郁子, 森田光哉, 小野寺理, 下畑享良, 徳田隆彦, 村山繁雄, 長谷川一子, 古和久典, 花島律子, 中島健二, JALPAC コンソーシアム . PSP Rating Scale による進行性核上性麻痺の経時的変化に関する検討 . 第 59 回日本神経学会学術大会 (北海道札幌市 ロイトン札幌) 2018.5.23
  - ・ 饗場郁子 . 教育コース . パーキンソン症候群の最新鑑別診断 ~ Look-alike を知ろう ~ Progressive supranuclear palsy and its look-alike . 第 59 回日本神経学会学術大会 (北海道札幌市 札幌市教育文化会館) 2018.5.23
  - ・ 高松泰行, 松田直美, 饗場郁子 . 進行性核上性麻痺患者の歩行特性 健常高齢者, パーキンソン病患者との比較 . 第 59 回日本神経学会学術大会 (北海道札幌市 ロイトン札幌) 2018.5.25
  - ・ 下畑享良, 饗場郁子, 吉田眞理, 豊島靖子, 村山繁雄, 内原俊記, 新井哲明, 齋藤由扶子, 矢部一郎, 長谷川隆文, 齋藤祐子, 瀧川洋史, 長谷川一子, 池内 健, 長谷川成人, 小森隆司, 若林孝一, 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 中島健二, J-VAC study group . Background pathology of 'corticobasal degeneration (CBD) mimics' -Japanese validation study of CBD-. 第 59 回日本神経学会学術大会 (北海道札幌市 さっぽろ芸術文化の館) 2018.5.26
  - ・ 松田直美, 高松泰行, 饗場郁子 . 進行性核上性麻痺における転倒頻度に関連する要因 ~ パーキンソン病との比較検討 ~ . 第 59 回日本神経学会学術大会 メディカルスタッフ優秀賞セッション (北海道札幌市 札幌市教育文化会館) 2018.5.26
  - ・ 饗場郁子 . 進行性核上性麻痺の新診断基準 ~ The movement disorder society criteria ~ . 第 12 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres (京都 ハイアットリージェンシー京都) 2018.7.6
  - ・ I. Aiba, T. Shimohata, S. Murayama, K. Hasegawa, Y. Iwasaki, O. Yokota, H. Fujimura, M. Sakai, T. Yokota, I. Yabe, H. Takigawa, K. Sugaya, K. Mori, M. Ito, C. Ishida, M. Kobayashi, Y. Hashizume, T. Ikeuchi, M. Hasegawa, M. Yoshida, T. Komori, K. Wakabayashi, Y. Saito, A. Tokumaru, K. Sakurai, K. Nakashima. Clinical features and natural history of pathologically-confirmed corticobasal degeneration: A Japanese validation study of CBD (J-VAC study). International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Hong Kong) 2018.10.7
  - ・ Y. Takamatsu, N. Matsuda, I. Aiba. The characteristic of gait in progressive progressive supranuclear palsy. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Hong Kong) 2018.10.7
  - ・ N. Matsuda, Y. Takamatsu, I. Aiba. The timed up and go test (time) is inversely associated

with fall frequency in progressive supranuclear palsy. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Hong Kong) 2018.10.7

・ Y. Takamatsu, N. Matsuda, I. Aiba. Gait Characteristic in Progressive Supranuclear Palsy. PSP & CBD INTERNATIONAL RESEARCH SYMPOSIUM 2018 (London, UK) 2018.10.25-26

・ 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 饗場郁子, 若林孝一, 齋藤祐子, 小森隆司, 吉田眞理, 村山繁雄, 長谷川成人, 池内健, 下畑享良, 中島健二. J-VAC studyにおける大脳皮質基底核変性症の画像所見-臨床, 画像, 遺伝子, 生化学の多角的検討- 第48回日本神経放射線学会(久留米市 久留米シティプラザ) 2019.2.14-16.

・ 饗場郁子, 齋藤由扶子, 横川ゆき, 片山泰司, 見城昌邦, 橋本里奈, 榊原聡子, 佐藤美咲, 中辻秀朗, 犬飼 晃, 岩崎 靖, 三室マヤ, 赤木明生, 吉田眞理. 進行性核上性麻痺新診断基準の検証~病理診断例における感度・特異度の検討~. 第60回日本神経学会学術大会(大阪 大阪国際会議場) 2019.5.23

・ 齋藤祐子, 饗場郁子, 佐野輝典, 小松奏子, 池内健, 長谷川成人, 徳丸阿耶, 村山繁雄, 日本神経病理学会ブレインバンク委員会. 大脳皮質基底核変性症における多角的診断の重要性. 第60回日本神経学会学術大会(大阪 大阪国際会議場) 2019.5.23

・ 瀧川洋史, 池内 健, 饗場郁子, 森田光哉, 小野寺 理, 下畑享良, 徳田隆彦, 村山繁雄, 長谷川一子, 古和久典, 徳丸阿耶, 花鳥律子, 中島健二, JALPAC研究グループ. Longitudinal study of PSP rating scale and clinical diagnosis in PSP cases. 第60回日本神経学会学術大会(大阪 大阪国際会議場) 2019.5.24

・ 饗場郁子, 齋藤由扶子, 横川ゆき, 見城昌邦, 片山泰司, 橋本里奈, 中辻秀明, 佐藤実咲, 犬飼 晃, 岩崎 靖, 三室マヤ, 安藤孝志, 池田知雅, 池内 健, 瀧川洋史, 村上あゆ香, 吉田眞理. 大脳皮質基底核症候群を呈した Diffuse Lewy body disease の剖検例. 第60回日本神経病理学会総会学術研究会(愛知 愛知県産業労働センター ウィンクあいち) 2019.7.15

・ 饗場郁子, 吉田眞理. PSP/CBDにおける臨床と病理. ワークショップ2 臨床に繋げる・繋がる神経病理. 第60回日本神経病理学会総会学術研究会(愛知 愛知県産業労働センター ウィンクあいち) 2019.7.16

・ 松田直美, 高松泰行, 饗場郁子. 進行性核上性麻痺患者の歩行特性. 第13回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres(東京 浜松町コンベンションホール) 2019.7.26

・ 饗場郁子, 横川ゆき, 齋藤祐子, 藤村晴俊, 齋藤

由扶子, 榊原聡子, 犬飼 晃, 矢部一郎, 酒井素子, 菅谷慶三, 横田 修, 小森隆司, 若林孝一, 岩崎 靖, 三室マヤ, 安藤孝志, 池田知雅, 吉田眞理. リチャードソン症候群を呈した進行性核上性麻痺および大脳皮質基底核変性症剖検例における臨床像の比較検討. 第13回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres(東京 浜松町コンベンションホール) 2019.7.26

・ 饗場郁子, 齋藤由扶子, 横川ゆき, 見城昌邦, 片山泰司, 榊原聡子, 橋本里奈, 佐藤実咲, 竹中宏幸, 犬飼 晃, 小林 靖, 平野光彬, 安藤孝志, 岩崎靖, 宮原弘明, 赤木明生, 三室マヤ, 吉田眞理. 正常圧水頭症でシャント手術後, リチャードソン症候群を呈した一例剖検例. 第56回名古屋臨床神経病理アカデミー(日本神経病理学会名古屋地区地方会)(愛知 名古屋大学医学部研究棟3号館) 2019.8.3

・ I. Aiba, Y. Saito, Y. Yokokawa, T. Katayama, M. Kenjo, R. Hashimoto, S. Sakakibara, M. Sato, H. Nakatsuji, A. Inukai, Y. Iwasaki, M. Mimuro, A. Akagi, M. Yoshida. Validation of the diagnostic criteria for progressive supranuclear palsy in pathologically confirmed patients. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (France Nice) 2019.9.24

・ Ikuko Aiba, Yufuko Saito, Yuki Yokokawa, Taiji Katayama, Rina Hashimoto, Satoko Sakakibara, Misaki Sato, Masakuni Kenjo, Akira Inukai, Yasushi Iwasaki, Maya Mimuro, Hiroaki Miyahara, Akio Akagi, Yuichi Riku, Mari Yoshida. Validation of the diagnostic criteria for progressive supranuclear palsy in pathologically confirmed patients. TAU Global Conference 2020 (Washington, D.C. USA) 2020.2.13

## H.知的所有権の取得状況(予定を含む)

### 1.特許取得

なし

### 2.実用新案登録

なし

### 3.その他

なし